



園に上がる坂の横に黄色いモッコウバラのアーチがあります。例年なら4月から5月にかけて満開を迎えますが、2月の暖かさに誘われて早くも一輪、二輪と花を咲かせているバラを見つけました。



朝、坂の上には立っていると様々な思い出が脳裏をよぎります。入園したての頃、モッコウバラが咲き誇る坂をニコニコ笑顔で駆け上がってきた子がいました。恥ずかしそうに保護者の後ろに隠れていた子や泣きながら抱っこされてきた子もいました。私と挨拶を交わすようになるまでに2年という月日を重ねた子もいました。みんな大きくなりましたね！

子どもには、きっかけはわからないけれども急に『あることができるようになる瞬間』がきます。昨日までためらっていたことにふと一步を踏み出す。その姿は“高いところから飛び下りる”ことと似ているように思います。高さはそれぞれでしょうが、跳ぶ前には心の中でたくさんの準備をします。怖さと向き合い勇気を奮い立たせ、何度も自分に問いかけながら…。時間をかけて静かに整える子もいれば、思い切ってすぐに飛び出す子もいます。けれど、どの子も『自分のタイミング』で跳ぶ瞬間を迎えます。そしてその一步は、明日へとつながる確かな一步になるのです。私たち大人は背中を無理に押すことよりも、その子が“跳ぶ”と決める瞬間を信じて待つことが大切なのかもしれません。

親は子どもが生まれた瞬間から、数々の『初めてできた！』に立ち会います。それは何とも幸せな瞬間です。私たち教育者もまた、何度もその瞬間に立ち会わせていただいています。しかしいつしか『できる』ことが当たり前になり、つい『できない』ことに目が向いてしまいがちです。「もっとできるようになって欲しい」、「もう少し頑張っていて欲しい」。その願いは愛情の形でもありますが、だからこそ一年の締めくくりには、ふと立ち止まってお子様の姿を見つめていただきたいと思うのです。4月の頃の我が子と、今の我が子。果たして同じでしょうか。身支度を整えること、友だちの名前を呼ぶこと、自分の思いを言葉で表

現しようとする。育ったのは目に見える力だけではありません。待つこと、譲ること、悔しくても諦めずにもう一度やってみること…。泣いていた子が笑えるようになりました。甘えていた子が挑戦するようになりました。言葉にできなかった思いが、少しずつ形になりました。

子どもたちは確かに育っています。年度の締めくくりだからこそ「できるようになったこと」に改めて光を当て、その成長を心から喜んでいただけたらと思います。その喜びこそが、子どもたちの次の一步を照らす光になるのです。

話は変わりますが、私は箱入りのシートマスクを毎日使っています。32枚入りなので、およそ一ヶ月で最後の一枚を迎えます。その一枚を手にとると、底に『最後まで使ってくれてありがとう。』というメッセージが書いてあるのです。使い始めて2年ほど、幾度も目にしている言葉ですが、そのたびに温かい気持ちになります。感謝の気持ちを言葉で伝えることは本当に大切ですね。改めまして、1年間、2年間、そして3年間！日々子どもたちを送り出し、支えてくださった保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。園での時間が安心と挑戦に満ちたものであったのは、ご家庭のあたたかなまなざしがあったからこそです。卒園される皆さま、最後まで本園を信じ、通ってくださってありがとうございました。進級される皆さま、次年度もよろしく願いいたします。



ぽかぽか陽気の昼休み、年少さんが『いいもの』を見つけたようで職員室に見せに来てくれました。小さな手に握られていたのは一粒のドングリ。よく見てみるとヒョロっと根っこが出ています。ドングリは、今突然根を出したわけではありません。冬の間、見えないところで力を蓄えていたのです。見えないところで伸ばした根が大地に根付きやがて小さな芽は大きく枝を広げていくことでしょう。子どもたちと同じですね。それぞれの春が、希望に満ちたものでありますように。

園長：讃井 理香

